真如三昧耶堂

真如三昧耶堂は真如苑のお堂であり、下醍醐の境内で最も新しい礼拝所の一つです。1997年に献堂されました。お堂で礼拝の主な対象となるのは、横になっている釈迦が涅槃に至ろうとするところを捉えた像です。

真如三昧耶堂は、以前法華三昧耶堂（法華経の殿堂）があった場所にあります。法華三昧耶堂は朱雀天皇（923～952、930～946）の要請で940年代に建てられましたが、1470年に醍醐寺を悩ませた戦争で消失しました。